

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078300094		
法人名	有限会社西日本総合		
事業所名	立花グループホームかつき苑		
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡立花町大字山崎1918番地 (電話) 0943-22-2928		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年7月13日	評価確定日	平成 19年 12月 4日

【情報提供票より】(平成 19年 6月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	13人, 非常勤 5人, 常勤換算 10.16人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	平屋建て	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(50000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		670 円

(4) 利用者の概要(6月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林医院 筑水会病院 公立八女総合病院 ほり歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然が残る静かな環境の中、ホームは建てられており、“生活の中から体力作りを”ということに力を入れている。ホームの敷地内にとどまらず一日の暮らしを膨らませてあげたいとの思いから、代表自らが毎日バスを運転し、ご利用者の希望の場所である、馴染みの場所、昔遊んだ場所、お店やデパートに買い物に出かけたり、ご利用者の自宅まで送り、家の様子を見て安心していただくなど、ご利用者主体の積極的な外出支援が行われ、ご利用者の毎日の楽しみと共に体力作りにつながっている。地域のために介護相談24時間サポートセンターを立ち上げ、子供・高齢者相談110番や障害者の受け入れを行うと共に、不登校の生徒のアルバイト受け入れも検討中である。職員が勉強したいという思いを大切に、研修費用の負担や勤務の調整など積極的な支援も行われている。職員はご利用者が自宅で生活していたことと同じようなペースで生活が送れるよう、ご利用者主体のケアを第一優先に日々細やかな努力が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①ホーム内の温湿度管理を客観的に把握するために、温湿度計を設置し毎日測定して記録すると共に、エアコンによる調整や、加湿器・霧吹きでの調整を開始。②緊急時の対応③感染症の対応として、担当者を決めて、対応マニュアルを作成し、職員への指導と実践。季節によって流行する感染症のアドバイス、等、積極的に取り組んでいる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 代表と計画作成担当者より、自己評価項目について職員に説明し、地域密着型サービスが重視されていることを伝え、評価をどのように活かしていくかを話合った。時間の関係で今回は自己評価を代表者・管理者・計画作成担当者で作成したが、来年は全員で話し合い取り組んでいく予定である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ご利用者・家族・自治会長・区長・民生委員・行政の担当者・ホームに関わりのある方を選定し、出席いただいている。運営状況や地域行事について話し合いが行われたが、ホームからの報告や要望が主な内容となり、出席者から意見を頂きそれを活かしていく段階までにはいっていないとのこと。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ご家族の面会時にご利用者の暮らしぶりや健康状態など、ホームの看護師が口頭で報告している。家族会や運営推進会議の場において、ご家族に意見を求めたり、苦情など言ってもらえるよう繰り返し声かけも行っている。家族から出された意見については、すぐに話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。毎月のホームだより以外にも年2回はご家族にお手紙を送っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し、代表が老人会に顔を出され囲碁の相手をしていただけないか等、有償ボランティアのお願いをしている。地域の高齢者のための24時間安心サポートセンターの運営も行われ、毎年、地元の小学校の職場体験の受け入れも行っている。地域のお祭りに参加したり、福祉センターを利用し、地域住民との交流を図っている。地域の商店にお買い物に行き顔なじみの関係も出来ている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「敬天愛人・独立自尊・日日感謝」を理念に掲げ、認知症グループホームの倫理綱領9条が定められている。地域密着型サービスとして、地域の中で自分らしく生きることを支えていくために、今後どうしていくかの話も職員に対して代表が行っているが、文章化まではされていない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けるために、さらに、理念の中にも、わかりやすく表現した文章を付け加えると良いのではないかと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表自ら、週1回の朝礼のときに、職員と朝礼に参加されるご利用者に、理念について話しをしている。さらに全員で倫理綱領を唱和している。理念の実践に向け、月1回のケアプラン会議の中で話し合い、取り組み方の検討を行っている。また管理者と計画作成担当者が地域の方に挨拶にまわり、地域密着型としての理念の実践に向け行動に移している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、自治会のお祭りに顔を出したりしている。毎年地元の小学校の職場体験を受け入れたり、代表が老人会に参加し、ご利用者の基の相手などの有償ボランティアの依頼を行う予定である。地域の方のために介護相談24時間サポートも行っている。保健福祉センターに行き、地域の人々との交流促進に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果に基づいて①温度度の管理の見直し②急変時の対応や感染症への対応について担当者を決め、対応マニュアルを作成し、職員を指導するとともに実践も行った。今回の自己評価は職員に項目の説明と地域密着型サービスが重視されていることを代表が説明し、話し合いは行われたが、時間の関係で代表と管理者・計画作成担当で評価表を作成したため、職員と共に取り組むことはできなかった。	○	自己評価は項目一つひとつを職員全員で点検していく過程を大切に、運営者・管理者は、評価の意義や活かし方を職員に伝えたり、自己評価や改善策の検討の仕組みを整える等、職員と共に取り組むことで、質の確保・向上につながることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族・自治会長・区長・民生委員・行政の担当者・ホームに関わりのある方を選定し、電話で事前に案内したり、直接案内状を持って行き参加してもらえよう働きかけをしている。参加できない方には事前にご意見をいただいている。しかしホームからの要望や会議で出された質問に答える形の会議となっており、会議を活かした取り組みとまでは至っていない。	○	会議内容がホームからの報告や要望にとどまっており、参加者に認知症の方の理解やホームの基本姿勢、ホームの活動の概要などを理解していただけるよう、議題作りの検討をされることでサービス向上に向けた意見をいただけるとと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表がオムツ券の相談や、ご利用者の方の状況を載せたホームだよりを持って役場の窓口を訪れ、運営に関することなど相談にもものっていただいている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	代表と前任担当者・現任担当者で個々の必要性を関係者と話し合い、2名の方は地域権利擁護事業を利用しており、必要な方には後見人である民生委員と協力して、支払い等支援しているが、全員の職員が制度を理解出来てるとまではいえない。	○	一部の職員は制度を学ぶ機会がなかったということで、全員が学べるような研修の場の確保を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御ご利用者の暮らしぶりや健康状態はホームの看護師からご家族の面会のときに口頭で報告し、金銭に関する報告はホームが立替した金額の請求書を毎月郵送している。職員の異動や退職等については家族会の場で報告している。毎月1回請求書と一緒にホームだよりをご家族宛に郵送し、年2回家族が帰省するための資料としてADLの状況を書いたお手紙を全家族に郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議において家族等に意見・苦情等を言っただけのよう、繰り返し声かけしている。ホームに意見箱も設置している。重要事項説明書に市町村・国保連等の相談窓口も掲載している。食事時間が早いとの意見が家族を通して上がったときも、すぐに話し合いをして時間を変更するなど対応を行った。	○	遠方にお住まいのご家族の場合、意見を述べる機会が少なく、積極的な働きかけを行っているとはまではいえない。ケアプランの見直しのときに合わせて意見をいただけるような取り組みを期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者へのダメージを考え、職員の異動・離職を最小限にするために、異動は2ユニットあるホーム内の異動にとどまり、職員全員参加による親睦会も開かれ、職員同士仲良く・明るい雰囲気があるため、離職数も少ない。退職された職員がホームに遊びに来てご利用者の話し相手をされることもある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象から外すということはずせず、障害者の受け入れも行っている。ご利用者との話し相手や好きな歌を披露してもらっている。個人の持っている能力を発揮して頂き、料理・手芸・野菜作り・作品作り・など力を発揮して頂いている。職員のキャリアアップにも配慮がなされ資格取得のための受験代の補助もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表は毎週月曜日の朝礼で人権尊重の大切さを話され、倫理綱領に定められている①個人を尊重します②個人を護ります③差別や虐待を行いません④生活の主体者として支援します⑤地域住民の一員として生きていけるように支援します等、九箇条を職員と共に唱和している。職員は意識して日々のケアに取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、事業所のサービスの質を良くするためには、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、職員が勉強したいという思いには協力的で、多くの職員が研修に参加できるよう研修費を負担したり、出勤扱いでの受講など支援している。	○	研修受講後、研修資料を回覧しているが、今後は、さらに資料のみでなくカンファレンスの時間等に伝達研修する時間を作っていたが、さらに一人一人の能力を把握して、段階に応じて育成するための計画を作成され、職員の質の確保・向上に向けた取り組みをされることを期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の研修が毎月1回、夜に行われており、5～6人の職員が参加し情報交換したり、相互訪問したりしている。代表は同業者との交流・連携の必要性を認識し、全国グループホーム協会にも加入し、全国大会に参加し、交流・連携づくりに取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の宅老所からの入居が多く、地域の方が宅老所を利用されている。職員も地域の方がおられ顔なじみの関係が出来ている。宅老所の職員が、ご利用者の不安解消のため、事前に入居の説明をしている。ホームは宅老所と部屋の作りも似ており、そこで使っていた家具をそのまま持ち込んでいただいたり、体験入居をしていただいてから徐々に環境に慣れていただくなどの工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者と一緒に食事の準備・後片付けをしたり、たけのこや豆の炊き方、梅干・高菜・らっきよの漬け方など教えてもらっている。ご利用者から“なんでんせなわからんもんね”と実際に自分で試してみるものの大切さを教えてもらっている。日頃の会話の中でご利用者の喜怒哀楽を把握し共有すると共に、言われた言葉を記録に残すようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者がホームでどのように暮らしていきたいか、日頃のケアの中や入浴中1対1になったときゆっくり聞き取りしている。意向の把握が困難な方の場合でも理解しようと一生懸命聞き、同調しようとする姿勢で臨んでいるが、全員の把握までには至っていない。	○	明確に意向を表明していただけないご利用者についても、認知症があるからわからないと諦めず、今の気持ちを把握しようとする姿勢を今後も保ちつつ、すべてのご利用者の思いや意向の把握に努め、プランに活かしていられることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	包括的自立支援プログラムを使い、職員から意見を求め介護計画が作成されている。地域のなかでその人らしく暮らし続けるために、自宅や馴染みのお店、昔遊んでいた場所への外出支援など実際のケアは行われているが、プランの中に盛り込まれていない。長期・短期目標がケアスタッフの視点で立てられており、具体的な行動計画が記載されていないため、プランを見ただけではどうケアしていいかがわかりにくい部分がある。	○	ご利用者1人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえた個別・具体的な課題・目標の記載をされるとともに、ご本人・家族の気づきや意見を計画に反映し、介護者が介護するための計画ではなく、利用者自身の計画であるという視点に立ち、介護計画を作成されることを期待したい。また現在行われているケアはすべて介護計画に記載し、具体的な行動計画を記載して頂くことで、ケアの方法・留意点の統一が図れると思われる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回カンファレンスにて話し合いが行われ、プランの見直しは3ヶ月ごとに行っている。介護計画の見直しは行われているが、毎月来訪できないご家族や遠方のご家族との話し合いが十分に出来ていない状況である。	○	毎月来訪できないご家族とも、見直し前にお手紙や電話等での意向の確認を行い、ご利用者、ご家族、関係者とともに一緒にプランの見直しがされるような取り組みを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、ご利用者・家族に安心して暮らし続けていただくために、個別の買い物支援や葬儀等への同行、余命1週間といわれた方が自宅に帰りたいと言われた時の同行など行っている。介護相談24時間サポート体制もあり、在宅の高齢者の相談にも対応されており、電球交換など依頼があれば自宅にかけつけ介助している。	○	事業所の多機能性を活かした支援が行われているが、地域の防犯パトロールを行って行きたいとの更なる思いが代表にあり、今後の取り組みを期待したい。
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後協力医療機関の医師が診察し、以前からのかかりつけ医と相談し、必要時はかかりつけ医を受診してもらっている。ご利用者・家族の希望があれば以前からのかかりつけ医の受診も可能で、通院介助も行われている。協力医療機関の医師は気さくで相談しやすく、また、先生個人の携帯番号を教えていただいております、24時間体制で対応してくださっている。月2回の往診も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期のケアに関して、ご利用者・家族の意向を確認している。“ここが最後の家”とおっしゃるご利用者もおられる。状態が悪化した場合、職員(看護師)が頻回に主治医に電話をかけたり、主治医が最後までホームにいて対応してくださっている。状況によっては、入居時に確認した意向に変化が見られることがあり、再確認も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	週1回の朝礼のとき、代表者が人権について話され、個人情報の取り扱いについても、電話での対応など具体例を出して説明されているため、全職員がプライバシーを尊重した声かけができています。ご利用者と話すときは、視線をあわせ、上から話しかけないようにし、耳の遠い方には声のトーンを少しおとし(高い声は聞こえにくい)話しかけるようにしている。	○	個人記録をご家族がいつでも自由に見れるように廊下に置かれているが、他の方の分でも自由に見ることができると、個人情報保護という点では保管場所の見当が必要と思われる。勉強会を行うと共に、来訪者の目に触れない場所の検討を期待したい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ家にいた時に近い状況で生活できるようケアを行っている。1人ひとりのペースを尊重して、食事時間をずらしたり、自由にお昼寝してもらったりしている。毎朝のバスハイクも行きたい方が行かれており無理強いはいされていない。意思を伝えにくい方には、家族に過去の生活ぶりを伺い、以前されていたようなことなどをしてもらっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会で献立を考え、ご利用者と一緒にごしらえや盛り付け、配膳・下膳を行っている。調理に使う野菜作りも一緒に行い、東棟の方は調理にも参加されている。朝と昼は職員も一緒に食卓につき、必要な介助を行いながら誤嚥に注意しながら、声かけしたり、楽しい雰囲気作りに心掛けている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者が“入りたいときに入らせて上げたい”という代表の思いがあり、毎日お湯が張られている。現在のところ1日おきに入浴される方がほとんどで、夜間を希望される方もおられない。男性の方で1番風呂を希望されるかたやお湯は少なめで入る方、ゆっくり入りたい方など希望に沿うよう支援されている。シャンプーも個別で準備されている。ご利用者と1対1でゆっくり会話できる入浴の時間を職員は大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者1人ひとりが食器洗い・調理・材料の皮むき・配膳などの役割を持たれ、中には他のご利用者の見守りや職員の教育係りを役割とされている方もおられる。身体面でお手伝いできない方には料理の味見役をしていただくなどの支援も行っている。文字を書くのが好きな方には、職員の見守りの元、薬袋に1人ひとりのお名前と日付けを書いてもらったりしている。楽しみごととして毎日のドライブや行事のときに得意な踊りや歌を披露していただいたりしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日代表の運転するバスでドライブや買い物に出かけることが日課となっている。行き先は当日決定されることが多く、お買い物できるお店や施設に行ったり、ご利用者が昔遊んでいた所や自宅の近所に行き、お孫さんの姿が見えたらバスをゆっくり走らせるなど配慮されている。バスに酔う方でも通院以外で月に1回は外出できるよう支援したり、不穏時には1人だけ外にお連れするなどの対応もされている。入居前に習慣とされていた外出が継続されるよう積極的な支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	勝手口には日中鍵がかけられているが、玄関の鍵はかかかっておらず、自由に入出入りができる。人が通ると音がるセンサーが玄関に設置されているため、音がしたら職員が確認するようにしている。不穏状態で職員2~3人での見守りが必要な場合、他の方の見守りが充分でなく、しかたなく玄関を施錠したことがあった。職員は日頃から、ご利用者の行動把握、人数確認などを頻回に行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災マニュアルがあり、今年6月末にご利用者も参加しての避難訓練が行われた。昨年は数回通報訓練も行われている。地震・水害に対する対策はまだ行われていない。地域に対して災害時の協力の依頼は特に行われておらず、災害発生時に備えて、缶づめやラーメンの準備がなされている。	○	災害時における地域の非難場所の確認を行うと共に、地域の方からの協力が得られるように、一緒に避難訓練を受けられるような取り組みを検討されてはどうかかと思われ、災害に備えた食料以外の備品等の準備も必要と思われる。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の献立委員会でバランスを考えたメニューの検討が行われている。摂取量は個別に調節し、体重や血液検査データを主治医がチェックしている。毎食摂取量を確認し5段階表示で記録している。水分量の記録はされていないが、摂取量の確認はされている。利用者の好みに合わせて食べられない場合は、料理方法を代えるなど工夫もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節のお花が飾られたり、食堂には七夕の笹が飾られていたり、季節に合わせた手作りの貼り絵が壁に飾られている。利用者にとって不快と感じる音や光は感じられず、気になる臭いもない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるよう、居室には使い慣れたベット・タンス・衣装ケース・カセット・仏壇など持ち込んでいただいている。居室の壁には家族の写真やお孫さんからの葉書が貼られている。		